



年 組 名前

道新でワークシート

足寄の化石 観光の目玉に

「アショロア」「ベヘモトプス」道天然記念物指定

十勝初 所蔵博物館 集客増に期待

【足寄】足寄動物化石博物館が所蔵する太古の海生哺乳類の「アショロア」と「ベヘモトプス」の化石が29日、北海道の文化財（天然記念物）指定を受けることが決まった。化石の天然記念物指定は道内5件目で十勝管内では初めて。いずれの化石も町内で全身の骨がほぼ見つかっており、保存状態は世界でも珍しい良さ。足寄観光の新しい目玉として同館は集客増を期待している。

（岡田圭史）

これらの哺乳類はジュゴンなどに近いとされ、柱を束ねたような特殊な歯を持つ特徴から「束柱類」とも呼ばれる。このうちアショロアは2800万年前に生息していたとされ、1976年に東京大名誉教授の木村学さんが町内で発掘し、町名から命名した。足寄以外では見つかっていない。ベヘモトプスの生息は2500万年前といわれ、80年に地元の農家兄弟が見つけた。今回は高化石の頭蓋や胸骨などの計200点が道の天然記念物に30日付で指定される。

かつて足寄周辺は海で、砂や泥などで堆積した上、湾地区のモラワン層は古生物化石の宝庫。束柱類は3千万〜1千万年前に日本周辺などの北太平洋沿岸に生息した後に絶滅した。アザラシのように海中で生活していた可能性を同館を含む日本とドイツの研究者が発



ベヘモトプスの復元骨格と復元画

表したが、生態の多くは謎に包まれている。道文化財保護審議会の答申によると、両化石を基にした完全な骨格標本は世界唯一で、束柱類の起源と進化を考察する上で学術的に極めて価値が高いと評価した。同館の安藤達郎館長は「知名度の低い束柱類だが北海道の太古の歴史を探るのに欠かせず、道の天然記念物指定で理解が広まるきっかけになれば」と語る。

世界的な価値がある。足寄のまちおこしにつながってほしい」と力を込める。

アショロアの化石を手にする安藤達郎館長
アショロアの化石を手にする安藤達郎館長は「アショロアは束柱類の中で最古級の化石として同館研究顧問の犬塚則久さんは「アショロアは束柱類の中で最古級の化石として同館研究顧問の犬塚則久さんは「アショロアは束柱類の中で最古級の化石として同館研究顧問の犬塚則久さんは」

